

2. 事業の目的と概要	
(1)事業概要	<p>ビエンチャン県において、中等学校の図書館整備を通して、学校図書室の設置を推進すると共に、県内の学校図書室の連携を構築して読書推進活動の強化を図る。</p> <p>This project aims to promote school libraries through setting up a school library in secondary schools in Vientiane Province. The project further aims to strengthen reading promotion activities by establishing coordination among school libraries in the Province.</p>
(2)事業の必要性(背景)	<p><u>(ア)事業実施国における一般的な開発ニーズ</u></p> <p>ラオス政府は、第 8 次国家社会経済開発計画(2016～2020 年)で、前期中等教育の純就学率の目標を 85%とし、前期中等教育の修了者の 5%は職業訓練学校に、90%は後期中等教育に進学する目標を掲げている。また、教育の質と公平性の改善を重点項目に掲げ、初等教育の質の改善を達成するため、ラオ語能力の向上のため図書室設置の重要性が強調されるとともに、地域住民による参加型学校計画策定と、その実施を通じた学校課題の解決に向け、学校及び村教育開発委員会(VEDC)* を含むコミュニティーの能力強化を打ち出している。*教育大臣令第 2300 号(2008 年)に基づき設置されている教育開発委員会は学校改善計画と村教育改善計画の策定とそれらの実施に責任を負うと定められている。</p> <p>教育改革を担うラオス教育スポーツ省(以下、教育省)は、読書環境の整備を重視し、図書室設置・整備を学校の設置基準としている。現在、小学校約 9 千校のうち約 800 校に図書室が設置され、これまで 2,000 校以上に図書箱(200 冊程度の本がセットされた木製の箱)が配付されてきた。また、小学校には近年初等教育支援の大きなプロジェクトが増加しており、教科書以外の図書も配付される機会が増えてきた。しかし、中等学校では約 1,500 校のうち図書室が設置されているのは 100 校と極めて少なく、図書箱の配付もない(ラオス国立図書館調査による)。また、1,000 名近い生徒数でも、図書室が設置されていないところが多い。中等学校は、ラオス社会の中堅となる人材を育てる役割を担っているが、このままでは、社会発展に必要な知識、技術、意欲を持つ人材を育成できない。</p> <p><u>(イ)なぜ申請事業の内容となったか</u></p> <p><b>【これまでの事業の成果と課題】</b></p> <p>当会は 1991 年からラオス政府が進める読書推進活動に協力し、これまで約 3,000 の小学校への図書配付、300 校の小中学校において図書室整備を行うと共に、約 5 千人の教員に対し、図書管理や活用、読書推進に関する研修を実施してきた。県・郡の教育指導官(主事)のトレーニングにも力を入れ、学校での図書活動が継続かつ安定的に行われるようサポート体制を整備してきた。</p> <p>2014 年度日本 NGO 連携無償資金「中等学校の図書館整備事業」により、ビエンチャン都内の 2 か所の中等学校において図書館整備事業を実施した。それまで実施してきた空き教室を利用した図書室では狭いことから、1,700 冊を超える多くの蔵書を持ち、閲覧スペースのある独立した図書館を設置することで、生徒が図書を借りるのみでなく、読書や学習ができる場とすることができた。開設後の統計によると、1 日あたり平均、ポイントン中では 81 名(全校生徒 960 名)、ノンサアット中では 190 名</p>

(全校生徒 1635 名)の利用がみられる。教員が図書を用いた授業を実施して、生徒の授業理解度が増したという報告もある。

この事業では、多くの生徒・教員に活用され、利用者数は当初のこちらの期待を上回る数値となった一方で、休み時間など限られた時間に多くの生徒が利用しようとするなど閲覧スペースが不足し、自習スペースへの要望も強くあることが分かった。さらに、団体として成果の持続性を確保するための仕組みの構築に取り組む必要があると考えている。

#### 【事業地と対象校の選択】

ビエンチャン都教育局およびビエンチャン県教育スポーツ局(以下県教育局)からの要望により、生徒数 700 名以上で、図書室がまだ設置されていない、中等学校7校を選び訪問した。その内、ニーズが高く、設置後の管理運営を村教育開発委員会とともに積極的に担う体制があり、さらに「県内の学校図書室の連携を構築して読書推進活動の強化を図る」という事業目的にかなう、3校を選定した。

- ・ ポンホーン郡ポンサイ中等学校 生徒 1,038 人 教員 52 人
- ・ ポンホーン郡サカ中等学校 生徒 950 人 教員 44 人
- ・ ヒンフープ郡ヒンフープ中等学校 生徒 932 人 教員 46 人

ポンホーン郡は、ビエンチャン県の中心部に位置し、教育局をはじめとする県の行政機関がある。県教育局によると、県内の小中学校 510 校のうち図書室が整備されているのは 193 校のみとのこと。この県の中心地に、同県全体への波及効果を期待し、県内の教員が学校図書館運営の基礎を学びに来られるようなモデル図書館を整備したいと、県教育局から強い要請がある。さらに、中等学校と村教育開発委員会との連携による、持続的な学校図書館の整備を重視する意図から、首都にある団体事務所からスタッフが、学校、地域、行政機関にアクセスしやすく、コミュニケーションがとりやすい点を考慮した。

一方のヒンフープ郡は、首都から車で 3 時間ほどのところに位置し、同県の中では少数民族の割合が高い。中等学校 1 年生のドロップアウト率は全国平均 8.1%に対し、郡平均は 13.1%と高い。また、4 年生までの前期中等課程を修了する割合は、全国平均が 71.8%なのに対し、34.8%と大きく下回っている。このように、教育環境がラオスでも不十分な地域で図書館が設置され、学習環境が整うことで、教育が改善する可能性を示す例としたく考えている。

#### ●持続可能な開発目標(SDGs)との関連性

目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に該当する。細分化ターゲット4.1の「適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」ための場として、必要とされているのが学校図書館であり、4.6の「読み書き能力を身につける」ことに繋がっている。

#### ●外務省の国別援助方針との関連性

対ラオス国別援助方針では「(3)教育環境の整備と人材育成」として、「社会経済開発の鍵となる人材を育成するため、教育環境の整備、教員の質と学校運営の改善を支援する」とある。当事業は教育環境の整備であるとともに、教員が授業で図書館を活用することで、教育の質の改善にも繋がる。

(3)上位目標	ビエンチャン県において、図書館活動が広がることにより子どもたちの学習環境の質が向上する
(4)プロジェクト目標	ポンサイ中等学校に図書館が建設され、適切に運営されるようになる
(5)活動内容	<p>◆ 1 年目 ◆</p> <p>ポンサイ中等学校において図書館を設置するため、以下の活動をおこなう。</p> <p><b>1) 関係機関との協働枠組みの構築</b></p> <p>県教育局、郡教育スポーツ局（以下郡教育局）、郡事務所、村教育開発委員会との協働枠組みを構築する。</p> <p>1-1 県教育局、郡教育局、郡事務所、村教育開発委員会約 7 名に対し、事業計画詳細の説明、期待される役割の確認、コミットメントの取り付けを目的としたオリエンテーションワークショップを 1 日間で実施する。</p> <p>1-2 国立図書館とともに、ポンホーン郡教育局スタッフ 4 名に 3 日間の「図書館運営」及び「読書推進活動」に関する研修を実施する。テキストとして当団体が出版した『図書館運営マニュアル』を使用し、図書の管理や貸出の手法など図書館運営に関すること、及び、子どもが図書に親しむための手法として「輪読」「暗唱」「演劇」などの実施方法や授業での図書活用方法などの読書推進活動に関することを広く学ぶ。また、マネジメントや予算管理に関する内容も研修する。</p> <p>1-3 村教育開発委員会と、①図書館活動及び図書館運営に係る予算を含めた学校改善計画の策定、②図書館建設のモニター、③学校改善計画の実施状況のモニター等、を内容にした覚書を締結する。</p> <p>1-4 郡事務所及び郡教育局と協働して、村教育開発委員会メンバー 4 名に対して、図書館運営を含む学校改善計画の策定を中心とした研修を 2 日間おこなう。本研修に際して、日本から図書館専門家(下田尊久氏)と事業アドバイザー(小林毅氏)を派遣し、学校教育の中において図書館をどう位置づけるか、学校と地域と行政の連携の進め方などのアドバイスをおこなう。</p> <p><b>2) 図書館の建設</b></p> <p>床面積 120 m<sup>2</sup>、78 席、本棚 10 台規模の図書館を建設する。ラオス経験が深い建築家野口朝夫(野口朝夫建築設計所代表・当団体事務局長)を日本から派遣し、設計・工事調整をおこなう。</p> <p>2-1 建設業者を選定・契約締結後、図書館建物の建設工事を実施。建物完成後、本棚、机椅子などの家具を設置する。 施工監理の専門人員(現地雇用ラオス人 1 名)を配置し、工事進捗状況を毎週報告させる。</p> <p>2-2 関係者(学校、国立図書館、県郡教育局、当会)で、蔵書を選定する。生徒や教員のニーズに合わせるとともに、教科書やカリキュラムに適した本を選ぶ。蔵書は8割以上がラオス語、約 2 割がタイ語・英語のとなる予定。</p> <p>2-3 図書と図書館運営に必要な備品、図書カードなどの消耗品を図書館に設置する。</p> <p><b>3) 教員及び生徒のトレーニング</b></p> <p>図書館の機能や役割を知らない教員に対し、図書館とは何か、図書を</p>

どう扱うかなど、図書館の基礎から研修する。理論のみならず実践力を付けることに重点を置き、学校の人材のみで運営できるようにする。また、運営をサポートする図書ボランティアの生徒を育成することで、運営を安定化させると共に、生徒達が図書館を身近に感じやすい状態を整備。

3-1 学校図書館のイメージ造りのために、校長・副校長・教員の代表計 5 名が、先行のN連事業で開設したビエンチャン都ポイントン中等学校の図書館を訪問する。

3-2 学校が選定した図書館担当教員約 5 名、及び、学校の呼びかけに応じた「図書ボランティア」の生徒 20 名程度を対象に、ラオス国立図書館とともに、図書館運営研修を実施する。研修は 2 段階に分け、各 3 日間ずつ実施し、テキストには当団体が出版した『図書館運営マニュアル』を使用する。第一段階は、図書の管理や貸出の手法など図書館の管理運営に関する研修をおこなう。第 2 段階では、子どもが図書に親しむための手法として「輪読」「暗唱」「本の紹介」「(本を題材にした)演劇」の実施方法や、授業での図書活用方法など、読書推進活動に関することを広く学ぶ。

研修実施後には修了書を発行する。

#### 4)モニタリングと評価

4-1 事業開始後、1か月に一度の割合で、校長、村教育開発委員会、当会で事業進捗のモニタリングをおこなう。図書館完成後は、運営状況、活用状況をモニターする。

4-2 年度の事業終了時に、図書館運営記録や図書貸出記録をまとめ、担当教員及び図書ボランティアの生徒、利用者の生徒にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集計する。校長、村教育開発委員会、郡教育局とともに、これらのデータから、図書館が適切に運営されているかどうかを確認する。同時に、次年度のポンサイ中等学校図書館の運営計画（資金計画を含む）を策定する。

#### ◆ 2 年目 ◆

サカ中等学校及びヒンフープ中等学校、各校において、図書館を設置する以下の活動をおこなう。

##### 1) 関係機関との協働枠組みの構築

県教育局、郡教育スポーツ局（以下郡教育局）、郡事務所、村教育開発委員会との協働枠組みを構築する。

1-1 県教育局、郡教育局、郡事務所、村教育開発委員会約 7 名に対し、事業計画詳細の説明、期待される役割の確認、コミットメントの取り付けを目的としたオリエンテーションワークショップを 1 日間で実施する。

1-2 国立図書館とともに、ヒンフープ郡教育局スタッフ 4 名に 3 日間の「図書館運営」及び「読書推進活動」に関する研修を実施する。テキストとして当団体が出版した『図書館運営マニュアル』を使用し、図書の管理や貸出の手法など図書館運営に関すること、及び、子どもが図書に親しむための手法として「輪読」「暗唱」「演劇」などの実施方法や授業での図書活用方法などの読書推進活動に関することを

広く学ぶ。また、マネジメントや予算管理に関する内容も研修する。

1-3 村教育開発委員会と、①図書館活動及び図書館運営に係る予算を含めた学校改善計画の策定、②図書館建設のモニター、③学校改善計画の実施状況のモニター等、を内容にした覚書を締結する。

1-4 郡事務所及び郡教育局と協働して、村教育開発委員会メンバー4名に対して、図書館運営を含む学校改善計画の策定を中心とした研修を2日間おこなう。本研修に際して、日本から図書館専門家(下田尊久氏)と事業アドバイザー(小林毅氏)を派遣し、学校教育の中において図書館をどう位置づけるか、学校と地域と行政の連携の進め方などのアドバイスをおこなう。

## 2)図書館の建設

床面積 120 m<sup>2</sup>、78 席、本棚 10 台規模の図書館を建設する。ラオス経験が深い建築家野口朝夫(野口朝夫建築設計所代表・当団体事務局長)を日本から派遣し、設計・工事調整をおこなう。

2-1 建設業者を選定・契約締結後、図書館建物の建設工事を実施。建物完成後、本棚、机椅子などの家具を設置する。

施工監理の専門人員(現地雇用ラオス人 1 名)を配置し、工事進捗状況を毎週報告させる。

2-2 関係者(学校、国立図書館、県郡教育局、当会)で、蔵書を選定する。生徒や教員のニーズに合わせてとともに、教科書やカリキュラムに適した本を選ぶ。蔵書は8割以上がラオス語、約 2 割がタイ語・英語のとなる予定。

2-3 図書と図書館運営に必要な備品、図書カードなどの消耗品を図書館に設置する。

## 3)教員及び生徒のトレーニング

図書館の機能や役割を知らない教員に対し、図書館とは何か、図書をどう扱うかなど、図書館の基礎から研修する。理論のみならず実践力を付けることに重点を置き、学校の人材のみで運営できるようにする。また、運営をサポートする図書ボランティアの生徒を育成することで、運営を安定化させると共に、生徒達が図書館を身近に感じ利用しやすい状態を整備。

3-1 学校図書館のイメージ造りのために、校長・副校長・教員の代表計 5 名が、1 年目の事業で開設したビエンチャン県ポンサイ中等学校の図書館を訪問する。

3-2 学校が選定した図書館担当教員約 5 名、及び、学校の呼びかけに応じた「図書ボランティア」の生徒 20 名程度を対象に、ラオス国立図書館とともに、図書館運営研修を実施する。研修は 2 段階に分け、各 3 日間ずつ実施し、テキストには当団体が出版した『図書館運営マニュアル』を使用する。第一段階は、図書の管理や貸出の手法など図書館の管理運営に関する研修をおこなう。第 2 段階では、子どもが図書に親しむための手法として「輪読」「暗唱」「本の紹介」「(本を題材にした)演劇」の実施方法や、授業での図書活用方法など、読書推進活動に関することを広く学ぶ。

研修実施後には修了書を発行する。

## 4)モニタリングと評価

4-1 事業開始後、1 か月に一度の割合で、校長、村教育開発委員会、当

会で事業進捗のモニタリングをおこなう。図書館完成後は、運営状況、活用状況をモニターする。

4-2 年度の事業終了時に、図書館運営記録や図書貸出記録をまとめ、担当教員及び図書ボランティアの生徒、利用者の生徒にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集計する。校長、村教育開発委員会、郡教育局とともに、これらのデータから、図書館が適切に運営されているかどうかを確認する。同時に、次年度のポンサイ中等学校図書館の運営計画（資金計画を含む）を策定する。

ポンサイ中等学校にて、図書館活動定着のために以下の活動を実施。

#### 5)読書推進活動の研修(応用編)

5-1 図書室担当教員及び図書ボランティアの生徒約 25 名を対象に、3 日間の研修を実施する。図書館が持続発展していくためのプログラム(読書週間、朝読書、読書感想文コンテスト、図書貸出ランキング、図書紹介コーナー設置など)を、現地関係者自身で作成できるようにする。校長と村教育開発委員会メンバーもオブザーバー参加し、サポートする。

#### 6)モニタリングと評価

6-1 学校が図書館運営記録を集計した報告書を 2 か月に一度の割合で作成し、村教育開発委員会に提出する。報告書提出後に、村教育開発委員会と郡教育局とともに当団体が学校を訪問し、運営状況を把握するモニタリングをおこなう。

6-2 年度の事業終了時に、担当教員及び生徒にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集計。校長、村教育開発委員会、郡教育局とともに、前年度に策定した運営計画通りに適切に運営されているかどうかを確認する。同時に次年度の図書館の運営計画（資金計画を含む）を策定する。

### ◆ 3 年目 ◆

サカ中等学校及びヒンフープ中等学校、各校において、図書館活動定着のために以下の活動を実施。

#### 5)読書推進活動の研修(応用編)

5-1 図書室担当教員及び図書ボランティアの生徒約 25 名を対象に、3 日間の研修を実施する。図書館が持続発展していくためのプログラム(読書週間、朝読書、読書感想文コンテスト、図書貸出ランキング、図書紹介コーナー設置など)を、現地関係者自身で作成できるようにする。校長と村教育開発委員会メンバーもオブザーバー参加し、サポートする。

#### 6)モニタリング

6-1 学校が図書館運営記録を集計した報告書を 2 か月に一度の割合で作成し、村教育開発委員会に提出する。報告書提出後に、村教育開発委員会と郡教育局とともに当団体が学校を訪問し、運営状況を把握するモニタリングをおこなう。

ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校にて、以下活動を実施。

	<p><b>7)地域イベント「読書推進活動フェスティバル(仮)」の開催</b></p> <p>ビエンチャン県において、学校図書館活動の重要性と認識を広め、読書推進活動の普及と活性化を目的とし、学校関係者及び郡教育局が中心となり、地域イベントを開催する。</p> <p>7-1 ポンサイ中等学校、サカ中等学校のいずれかを会場とし、ポンホーン郡での読書推進活動イベントを2日間で実施する。イベントは、金曜と土曜の2日間で実施する計画。(金曜は学校行事として実施や参加がしやすく、土曜は保護者や弟妹など地域の人に参加しやすくなる為。詳細は関係者と協議の上決定する。)</p> <p>2校の図書館担当教員と生徒に加え、同郡及び隣接する郡で図書室を設置している小中学校 34 校を集め、各校の活動の成果を発表する。内容は、物語の朗読や暗唱、本を題材にした演劇、本の挿絵、読書感想文、ブックトークなど、図書や読書に関連するテーマでのコンテストをおこなう。競い合い、表彰することで、各学校の教員や生徒のモチベーションを向上・維持することを目的としている。</p> <p>また、地域への波及効果を狙いとし、イベントには、ポンホーン郡内の小中学校 61 校全てに広報し、図書室を設置していない学校の校長、教員、村教育開発委員会メンバーの参加も促す。</p> <p>7-2 ヒンフープ中等学校を会場とし、ヒンフープ郡での読書推進活動イベントを2日間で実施する。イベントの実施方法は、上述のポンホーン郡と同様。</p> <p>同校の図書館担当教員と生徒に加え、ヒンフープ郡及び隣接する郡で図書室を設置している小中学校 15 校を集め、各校の活動の成果を発表する。また、ヒンフープ郡内の小中学校 61 校全てに広報し、図書室を設置していない学校の校長、教員、村教育開発委員会メンバーの参加も促す。</p> <p>7-3 イベント実施後に、イベントの様子や表彰された学校の活動を紹介する冊子を当団体が発行し、ビエンチャン県内の小中学校 512 校へ配付する。</p> <p>7-4 イベント実施後に、参加校に対してアンケート及び訪問調査をおこない、活性化と普及の状況を確認する</p> <p><b>8)終了時評価</b></p> <p>8-1 学校から提出された報告書から、図書館運営記録などをまとめ、さらに、担当教員や図書ボランティアの生徒、利用者の生徒にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集め、集計と分析をおこなう。これらのデータをもとに、学校、村教育開発委員会、県教育局、郡教育局とともに、事業終了時評価を実施する。</p> <p>3年間の裨益人口数：直接：3,062人（生徒2,920人,教員142人） 間接：10年間で約30,000人以上</p>
(6)期待される成果と成果を測る指標	<p>◆1年目◆ ポンサイ中等学校 ◆2年目◆ サカ中等学校及びヒンフープ中等学校</p> <p><b>活動1) 関係機関との協働枠組みの構築</b></p> <p>成果(1)村教育開発委員会が図書館活動をサポートする体制ができる。 指標(1-1)対象 2 郡の教育局担当者が、村教育開発委員会に対し、図書館整備を含む学校改善計画の策定のための指導ができる</p>

	<p>ようになる。</p> <p>(1-2) 村教育開発委員会により図書館運営計画が作成される。 【運営計画の内容確認、村教育開発委員へのインタビューで確認。】</p> <p><b>活動 2) 図書館の建設</b></p> <p>成果 (2) <u>十分な設備が整った図書館が開設され、運用されるようになる。</u></p> <p>指標 (2-1) 学期中、週 5 日、図書館が定期的の開館している。 【図書館活動記録と担当教員へのインタビューで確認。】</p> <p><b>活動 3) 教員と生徒のトレーニング</b></p> <p>成果 (3) <u>開設した図書室が生徒に十分に活用されるようになる。</u></p> <p>指標 (3-1) 一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の 8%になる。 (3-2) 一日あたりの平均図書貸出者数が図書利用人数の 20%になる。 (3-3) 研修を受けた教員が図書館運営方法や授業での図書活用法を理解する。 【図書館活動記録と校長や教員、生徒へのインタビューで確認。】</p> <p><b>活動 4) モニタリングと評価</b></p> <p>成果 (4) <u>学校図書館が期待通りに運営されるようになる</u></p> <p>指標 (4-1) 校長、村教育開発委員会が事業進捗のモニタリングに参加する。 (4-2) 次年度の図書館運営計画(資金計画を含む)が策定される。 【図書館運営記録、図書貸出記録、校長、村教育開発委員会へのインタビューにより確認。】</p> <p>◆2年目◆ ポンサイ中等学校 ◆3年目◆ サカ中等学校及びヒンフープ中等学校</p> <p><b>活動 3) 教員と生徒のトレーニング</b></p> <p>成果 (3) <u>開設した図書室が生徒に十分に活用されるようになる。</u></p> <p>指標 (3-1) 一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の 10%になる。 (3-2) 一日当たりの平均図書貸出者数が図書利用人数の 25%になる。 (3-3) 研修を受けた教員の70%が図書を授業で活用するようになる。 (3-4) 図書館担当教員や生徒が計画した図書館プログラムが実施される。 【図書館活動記録と校長や教員、生徒へのインタビューで確認。】</p> <p><b>活動 5) 読書推進活動の研修(応用編)</b></p> <p>成果 (5) <u>読書推進の図書館プログラムが実施されるようになる。</u></p> <p>指標 (5-1) 各学校図書館で、研修で習得したプログラムが、学期に1回以上実施されている。 【プログラムの実施記録や教員、生徒へのインタビューで確認。】</p> <p><b>活動 6) モニタリングと評価</b></p> <p>成果 (6) <u>学校図書館が期待通りに運営・利用されるようになる</u></p> <p>指標 (6-1) 学校が2カ月に一度の割合で報告書を作成し、村教育開発委員会に提出している (6-2) 校長、村教育開発委員会がモニタリングを実施できるようになる。 (6-3) 学校と村教育委員会のみで、翌年度の図書館運営計画(資金計画を含む)を策定できるようになる。</p>
--	---



	<p>【図書館運営記録、図書貸出記録、校長、村教育開発委員会へのインタビューにより確認。】</p> <p>◆3年目◆ ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校</p> <p>活動 7) 地域イベントの開催</p> <p>成果(7) <u>地域の読書推進活動が活性化する。</u></p> <p>指標(7-1) 読書推進活動のイベントが実施され、他校から 500 名以上か参加する。</p> <p>(7-2) 学校や地域などの子どもを取り巻く人々の間に、図書館活動の重要性が認識される</p> <p>【イベント実施記録、校長、村教育開発委員会、教育局、子どもへのインタビューで確認。】</p>
(7) 持続発展性	<p>事業の実施で以下の体制を整えることにより、事業の効果が持続可能となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 村教育開発委員会が学校改善計画の策定と役割について理解する。</li> <li>② 村教育開発委員会が予算を含む図書館運営をサポートする体制を構築する。</li> <li>③ 学校の人材のみで適切に図書館を運営できる体制を構築する。</li> <li>④ 学校長が図書館の重要性を理解し、図書館担当教員を配置し、教員相互で補い合い、継続できる体制を作る。</li> <li>⑤ 郡教育局と村教育開発委員会と学校が緊密に連携し、学校図書館をモニタリングする体制を作る。</li> </ol>